

心つないで

No.48

発行

2012年12月1日

東日本大震災

ろっこう医療生協・対策本部〈本部長・金丸正樹〉

(ろっこう医療生協・本部内 TEL 078-802-3424)

神戸から福島へ



【報告する、谷口所長〈写真・上〉】

・以下、谷口所長の感想をお聞きました。

「震災後、なかなか大きな会場をとることが難しいとおっしゃっておられた福地専務に連れられて、公民館(1200人くらい入れるホール)に。

これまで、この手の集会、学習会を開けば、お話し1時間に質問2時間というほどに厳しい質問が尽きないということのようです。もっと近い場所での膝つき合わせた話でもよかったです。高い壇上から甲状腺エコーの画像を基本的なことも含めて説明しながら報告してきました。放射線の影響について質問がありましたが、この結果から示されることを誇大にも、矮小にもとらえられないように答えました。まあ、しっかり聴いていただいたでしょうか？」



・福島に暮らす人びと、そしてさまざまな思いと事情で福島を離れた人びと、それぞれに苦難の日々を送っています。引き続き出来る支援を続けたいと思います。

←【壇上に立つ谷口所長と川添理事長(右)】

【熱心に聞き入る、福島中央市民医療生協の組合員・職員のみなさん】



谷口所長、福島で小児甲状腺エコー検査を報告

○六甲道診療所所長・谷口先生が11月25日(日)、福島中央市民医療生協(本部:福島市)主催の「ひまわりプロジェクト・組合員学習会」に参加し、当生協が取り組んだ小児甲状腺超音波調査結果を報告しました。

・この学習会は、「原発事故とこれからの私たち」をテーマに、発災後の時間の経過と共に、社会は、環境は、暮らしは、そして人びとの気持ちはどのように変化し、これから自分たちは何を思い、何をよりどころに暮らしていけば良いのかを考えあうために企画されたもの。

・会場の福島市公会堂には、福島中央市民医療生協の組合員・職員のみなさんなど、約300人が参加。川添隆司・福島中央市民医療生協理事長の講演と、谷口先生の報告を熱心に聞き入っておられました。

【写真・下】



第7回アジア太平洋協同組合フォーラム開催

「原発災害は今も日ごとに拡大」と福島から発言

・今年国際協同組合デーです。その記念事業の一環として11月28日に「第7回アジア太平洋協同組合フォーラム」が日本・アジア各国からの参加のもと神戸の国際会議場で開かれました。

・その国別報告の中で、「東日本大震災および原発事故の現状と課題」と題し、清水修二さん(福島大学教授)が発言され、「原発災害は収束に向かうところではない。被害は日ごとに拡大しているとさえ言うべき。」と全国、そして世界の協同組合からの参加者に支援を呼びかけられました。

よりそい基金にご協力を

11/19現在 403,836円 → 目標 百万円